

# 1 学年 社会科学習指導案

1 単元名 「古代社会を支え、国の発展に貢献した人々」－遣唐使を考える－(東京書籍)

## 2 単元について

- 本単元については、社会科学習指導要領歴史的分野の内容(2)古代までの日本の学習として位置付ける。ここでは、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを「律令国家の確立に至るまでの経緯」、「摂関政治」の学習を通して理解させることをねらいとしている。

遣唐使については、唐の進んだ制度・文物の輸入を目的として派遣された使節である。630年から894年の間に18回の遣唐使任命があり、そのうち実際に渡航したのは15回(数え方に諸説あり)といわれている。役人、留学生、学問僧として阿倍仲麻呂、吉備真備、最澄、空海などがおり、さまざまな経緯を経て、894年菅原道真の建議により中止された。航海には、造船技術の未熟さや航海の危険が伴い、後期には航路の変更により、実に30%が遭難したといわれ、遣唐使は生きて帰れる保障さえなかった。このように過酷な状況の中遣唐使は世界で最も進んだ文化を習得・輸入し、国の発展に大きく貢献した。

遣唐使についての学習では、唐の制度や文物を学ぶ価値、様々な人々の立場や観点から歴史的な事実を見つめさせることができる題材だと考える。将来、社会の形成者として生活する生徒たちには、社会的事象について様々な立場や観点から考え、理由をもって公正に判断し自分の考えをもつことができるようにすることが必要である。歴史的事象の内容を十分に理解させ、どのような価値を重要と判断するのか多角的に考察し、表現する力を育成する上で十分意義があるテーマだと考える。

- 本単元の内容は小学校で既習の内容である。「聖武天皇は、中国(唐)へ使者(遣唐使)や留学生を送り、皇帝中心の政治のしくみや文化を学ばせました。」(東京書籍新しい社会6上)とあり、生徒は遣隋使に引き続き、国づくりのために新しい制度や文化、学問を取り入れたことを学んでいる。

本学級の生徒は、小学校時の既習内容を生かし、歴史的分野の授業に積極的に臨んでおり、挙手をして発表する生徒も多くみられる。ただ、確定している事実の発表は意欲的に行うが、自分の意見を表明することを難しく感じ、発言できない傾向が見られる。その理由としては、1つ目に自分の意見を述べる場合に恥ずかしさが先に立ってしまうこと、それから2つ目に意見のもちかたや判断の仕方や発表の方法が分からないことが考えられる。今までに社会科の授業の中で自分なりの考えをもち、意見を述べるという経験や話し合い学習の経験があまりなかったこともそれらの背景であろう。知識も豊富で事実の認識できている反面、身の周りの社会的事象を根拠をもって判断して表現する力までは育っていないと考える。話し合い学習については、好き(どちらかというとき好き)、嫌い(どちらかというとき嫌い)がほぼ同数であり、『好き』の理由として「自分の話を聞いてもらえるから」、「自分が分からないところを友達から教えてもらえるから」などがあり協働学習のよさがうかがえる。その反面、『嫌い』と答えた生徒は、「自分の考えを話すのが苦手だから」とか、「うまく伝えられないことがあるから」という理由を述べており、意見発表や話し合いの前に自分の考えをしっかりとめさせるところに十分な手立てをとっていく必要性を感じている。

- そこで、指導にあたっては、遣唐使派遣に関して意思決定型の場面を取り入れた授業を仕組みたい。意思決定を行うには今までの学習内容に加え、様々な資料を活用し自分の考えの根拠としていく必要があるが、様々な立場(考え方)や観点を意識させ判断させることにより、判断の過程を重視して指導をすすめたい。さらに、友達の意見を聞くことは、自分とは異なる考えや立場があることを認識し、自分の意見の脆弱さや視野の狭さに気付き自分の意見を鍛えることにもつながると考

える。

指導過程においては、古代の国家の歩みを東アジア世界とのつながりと関わらせて学習を進める。日本の国づくりにおいて古代国家の統治に必要な制度や文物はその多くが隋や唐からもたらされたものであり、強い影響を受けていることを理解させる。また、古代の文化を担った人々として天皇・貴族、遣唐使、物語の作者にも着目させ古代国家における文化の広がりや深まりについても理解させたい。

以上のような指導過程を通して、必要な資料を活用して、自分の考えをまとめさせ、分かりやすく効果的に表現する力を育てたいと考える。自分の考えを決定し述べる学習を通して、複数の社会的事象に関する解決策の中から理由付けを行い、判断する力を育成することは、大変意義のあることと考える。

### 3 単元の目標

古代国家のしくみが整えられ、天皇や貴族の政治が展開したことを聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至る過程、摂関政治を通して理解させる。遣唐使に関して資料を収集・活用する過程を経て、自分の考えをもち、根拠を明確にして表現する力を育てる。

### 4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
<p>○律令制度や摂関政治のしくみが整い、天皇や貴族の政治が展開されたことに課題意識をもって追究しようとする。</p> <p>○国際的な要素をもった文化が後に国風化したことに関心を持ち、意欲的に追求し、古代までの文化遺産を尊重しようとする。</p>	<p>○律令国家のねらいについて、その特色に課題意識をもち、複数の立場や観点から考え、自分の言葉で表現する。</p> <p>○仏教の影響や文化を担った人々などに着目し、古代の日本において栄えた文化の特色について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>○律令制度や摂関政治など天皇・貴族の政治についての様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p> <p>○法隆寺や正倉院の宝物、仮名文字など様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p> <p>して古代文化の特色をとらえている。</p>	<p>○律令制度や摂関政治の仕組みが整い、天皇や貴族の政治が展開されたことを理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>○国際的な要素をもった文化が後に国風化するなどの特色を理解し、その知識を身に付けている。</p>

### 5 単元計画（全8時間 本時6/8）

過程	主な学習活動	教師の働きかけ（○）	【評価】	時配
第1次	<p>○聖徳太子の政治改革 聖徳太子の政治の目的を考える。 飛鳥文化の特色を理解する。</p>	<p>○聖徳太子の政治について調べさせ、政治の目的について理解させる。</p>	<p>・聖徳太子の政治の目的について考察し、その結果を適切に表現している。（ワークシート）</p>	1
第2	<p>○大化の改新 大化の改新から律令国家の確立に</p>	<p>○小学校での学習を生かし、大化の改新とその後</p>	<p>・大化の改新から律令国家の確立に</p>	1

次	至るまでのあらましを理解する。	の政治について理解させる。	至るまでの経過を表にまとめている。	
第3次	○律令国家の成立と平城京 大宝律令と古代国家のしくみを理解する。唐の影響について考察する。  <b>唐の影響はどのようなところに表れているのだろう。</b>	○律令の制定、都の造営、地方への支配の広がりなど、古代国家の特色を理解させる。	・天皇、貴族の力の大きさや中国の影響について文章に表現している。 (ワークシート)	1
第4次	○奈良時代の人々の暮らし 班田収授法の内容やしくみを理解し、貴族や農民の生活の実態を資料を通して理解する。	○班田収授法についてまとめさせ、貴族や農民の生活、土地制度について理解させる。	・口分田が不足した結果土地制度が変化したことを説明できる。 (ワークシート)	1
第5次	○天平文化、平安時代の政治 遣隋使や遣唐使の派遣が文化に与えた影響について理解する。 平安遷都後の政治や文化の特色を知る。  <b>遣隋使や遣唐使が政治や文化に与えた影響を知ろう。</b>	○天平文化は仏教と唐の影響を強く受けていることを代表的な事例を通して理解させる。 平安時代の政治や文化について理解させる。	・天平文化が仏教や遣唐使の影響を受けていることを記述している。 平安時代の政治や文化の特色をまとめている。 (ワークシート)	1
第6次	○平安京と東アジアの変化 遣唐使の果たした役割や意義を理解する。遣唐使を続けることのマイナス面について考える。  <b>遣唐使が果たした役割を考えよう。</b>	○遣唐使の果たした役割を理解させる。 遣唐使の停止の理由について考えさせる。遣唐使関係の資料を提示して多面的に考えさせたい。	・資料を通して遣唐使の果たした役割や意義を振り返り、今後の東アジアとの関係を構想する。(ワークシート)	本時 1
	○意思決定の場面を取り入れた授業 遣唐使の停止についての自分の考えを根拠を明らかにして論述する。	○既習内容や関係資料等をもとにして、遣唐使の停止についての意見をまとめさせる。友達の見解を参考にして自分の考えを広げさせる。話し合い前後の考えの変化を記録させる。	・遣唐使の派遣について自分の考えを根拠を明らかにしてまとめている。 (ワークシート)	1
第7次	○摂関政治と国家や社会の変化 藤原氏が勢力を伸長する様子を知る。遣唐使の廃止が国家や社会に与えた影響を考察する。	○摂関政治について調べさせ、藤原氏が天皇の外戚となり勢力を伸ばしたことや国風文化の特色を理解させる。	・国風文化について代表的な事物をもとにその特色をまとめている。 (ワークシート)	1

## 6 本時の目標

遣唐使が果たした役割を理解する。遣唐使が果たした役割と遣唐使を続けることのマイナス面を考えることを通して、遣唐使の停止について自分の言葉で表現することができる。

## 7 展開(全8時間 本時6/8)

学 習 活 動	教師の働きかけ (○) と【評価】
1 学習のめあてを確認する。	○遣唐使が伝えたことや学んだこと、遣唐使を続けることのマイナス面という両面を背景に、話し合いをしてみたいという意欲をもたせる。
<b>めあて 遣唐使が果たした役割を考えよう。</b>	
2 遣唐使が伝えたもの、来日した人を理解する。 ・平城京 ・政治のしくみ、税制 ・仏教 (最澄・空海) ・天平文化 ・珍しい文物 (ヨーロッパ等からも) ・鑑真	○遣唐使はいつから、何回くらい派遣されたか、また、唐から伝えたものや学んだこと、ものを映像や資料集等を基に確認させる。 【ICT】 ○遣唐使はたくさんの苦労や犠牲を払いながら、唐の政治制度や文物を日本に伝えたことを確認する。 (発表・観察) 【評価】
3 鑑真の来日について知る。	○鑑真は唐から5回の航海の失敗と12年の歳月をかけて苦労のすえ来日し、我が国の仏教と学問の発展に尽くしたことを映像で見せ理解させる。 【ICT】
4 遣唐使を続けることのマイナス面を考える。 ・唐への航海はとても危険だった。 ・造船、航海技術が未熟だった。 ・命の危険があった。(航海、上陸後) ・唐の国力が衰えつつあった。 ・新羅との関係が悪くなっていた。 ・文化やもの、仏教など大切なことをすでにたくさん学んでいた。 ・唐や新羅の船が日本に来るようになりこちらから向かう必要がなかった。	○本時までの学習過程では主に遣唐使の意義や役割(プラス面)にスポットをあててきた。ここでは、遣唐使の派遣を続けることのマイナス面にも注目させ、関心をもたせる。 ○必要に応じて遣唐使に関する資料を提示し、遣唐使について多面的な見方ができるようにする。 ○菅原道真の進言(資料)を読ませる。唐の国力が衰退していること、航海の危険について書かれていることを読み取らせる。 ○日本と中国、ヨーロッパとのつながりも視野に入れる。 ○遣唐使を停止して良かったのかどうか、自分の考えを決めさせる。
<b>社会的な問題(研究や論争となる事件) 遣唐使を停止すること。</b>	
5 遣唐使について一次的な意思決定を行う。	○本時の学習を終えた時点での意思決定を行う。(ワークシート) 【評価】
<b>論題 遣唐使は停止してよかったのかどうか考えよう。</b>	
6 今日の学習を振り返る。	○賛成・どちらかといえば賛成・どちらかといえば反対・反対のグループに分け考えを交流させる。
7 次時予告をする。	○遣唐使の停止について自分の考えをまとめる時間であることを伝える。

## 8 本時の評価

単元の 評価規準	天皇や貴族の政治が展開したことを聖徳太子の政治，大化の改新から律令国家の確立に至る過程や摂関政治を通して，古代国家のしくみが整えられていったことを中国との関係などから多面的・多角的に考察することができる。		
本時の 評価規準	遣唐使が果たした役割を理解する。遣唐使が果たした役割と遣唐使を続けることのマイナス面を考えることを通して，遣唐使の停止について自分の言葉で表現することができる。		
判定基準	A 十分達成	B おおむね達成	C 達成不十分
→ 達成不十分な児童・生徒への支援	遣唐使の派遣や派遣の停止について自分で調べたことや資料などから多角的に理解し，根拠を明確にして自分の考えを述べている。	遣唐使の派遣について，プラス面とマイナス面の両面があることを理解し，自分の考えを記述している。 → 歴史的事象は多面的に見ることができ，自分の意見の理由を明確にしていくことを説明し理解を促す。	遣唐使の派遣について，プラス面とマイナス面があったことを理解することができる。 → 遣唐使にはプラス面，マイナス面の両面があったことを補足説明し，意思決定に向かわせる。
評価方法	ワークシートの記述・発表内容		